幽霊の衣裳

田中貢太郎

青空文庫

三代目尾上菊五郎は怪談劇の泰斗として知られていた。其の菊五郎は文化年代に、鶴谷南北の書きおろした『東海道四谷怪談』を木挽町の山村座で初めて上演した。其の時菊五郎はお岩と田宮の若党小平、及び塩谷浪人佐藤与茂七の三役を勤めたが、お岩と小平の幽霊は陰惨を極めたもので、当時の人気に投じて七月の中旬から九月まで上演を続けた。

其の後天保になって菊五郎は、堺町の中村座の夏演戯で亦『四谷怪談』をやる事になり、新機軸を出すつもりで、幽霊の衣裳に就いて考案したが、良い考えが浮ばなかった。

ちょうど其の時、中村座に関係していた蔦芳と云う独身者がいた。それは、演戯茶房蔦屋の主翁の芳兵衛と云う者であったが、放蕩のために失敗して、吉原角町河岸の潰れた女郎屋の空店を借りて住んでいた。

蔦芳は中村座の開場が近くなったので、毎日吉原から通っていたが、某日浴衣が汗になったので、更衣するつもりで二階の昇口へ往ったところで、壮い男が梯子段へ腰をかけていた。蔦芳は自分にことわらないで、あがりこんでるのは何人だろうと思って見たが、夕方で微暗いのではっきり判らなかった。

「おい、おめえは何人だ、其処にいちゃ邪魔にならあ」

気の強い蔦芳は、いきなり足で其の男を蹴っておいて二階へあがり、俳優のお仕着の浴衣を執って来たが、おりる時にはもう其の男は見えなかった。

それから五六日して蔦芳は、亦彼の壮い男が便所の口に立っているのを見たので、其の日中村座へ往って其の事を話した。

小屋の者はそれを菊五郎に話した。幽霊の衣裳を考案していた菊五郎は、早速蔦芳を自宅へ呼んで、今度出たら着附を良く見ておいて知らしてくれ、骨折賃を二両出そうと云った。其の時の二両は可成な金であるから、蔦芳は喜んで幽霊の出現を待っていた。

すると中村座の初日の二日前の夜、其の幽霊が蔦芳の臥ている部屋へぬうと現れた。蔦芳はしめたと思って能く見た。二十四五の壮い男で、衣服は浅黄木綿の三つ柏の単衣であった。蔦芳は夜の明けるのを待ちかねて、菊五郎の許へ駆けつけた。菊五郎はそこで小平の衣裳を浅黄木綿石持の着附にして、其の演戯に出たので好評を博した。

蔦芳の見た幽霊は、蔦芳が後で調べてみると、其処の女郎屋の壮佼であった。其の壮佼の徳蔵と云うのは、病気の親に送る金に困って客の金を一歩盗んだ。因業者で通っていた主翁は、それを突き出したので徳蔵は牢屋に入れられ、其のうちに病死したが、其の徳蔵が曳かれて往く時着ていた衣服は、店の妓がやった浅黄木綿三つ柏の単衣であった。

（悟道軒円玉氏談）

青空文庫情報

底本：「怪奇・伝奇時代小説選集3　新怪談集」春陽文庫、春陽堂書店
　　1999（平成11）年12月20日第1刷発行
底本の親本：「新怪談集　物語篇」改造社
　　1938（昭和13）年
入力：Hiroshi_O
校正：noriko saito
2004年8月20日作成
青空文庫作成ファイル：
このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（http://www.aozora.gr.jp/）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

幽霊の衣裳

田中貢太郎

2026年10月1日　第二版

奥　付

発行　　青空文庫

URL　　http://www.aozora.gr.jp/
E-Mail　　info@aozora.gr.jp

作成　　青空ヘルパー　　赤鬼@BFSU
URL　　https://aohelp.club/
BiliBili　　https://space.bilibili.com/10060483

Special Thanks
　青空文庫　威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー http://aohelp.club/
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
http://tokimi.sylphid.jp/